

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

誰ひとり取り残すことのない学びの環境づくり 京丹波町版 子どもサポート推進事業

事業の経過・背景・課題

本町では、令和2年度以降不登校児童生徒の増加が見られ、不登校支援の取組は喫緊の課題となっている。その対応にあたっては、体制の要として教育支援センターの設置が望まれるところであるが、本町は校区が広域にわたるため町内で一箇所の施設による効果的な支援は難しいことが予想され設置に至っていない。

このため、町内に不登校支援相談チームを設置し、情報共有や課題分析と取組の教訓化などを進めているが、より組織的、系統的な取組が必要となっている。

取組内容

交付実績額： 4,106 千円

町内に不登校支援相談チームを設置し、情報共有、視点の明確化、教訓化などを進めているが、より組織的・系統的な取組に向け、「連携型校内教育支援教室」を軸とした関係機関の連携による支援体制づくりを行う。

教職員向けに、課題と取組の情報共有やスクリーニングや心理検査結果分析、未然防止の学校環境づくりについての研修を実施。



④校区が広域にわたる本町において、定点型の適応指導教室に変わる仕組みとして各校の状況に応じた「連携型校内教育支援教室」の配置

○本町の現状に即した不登校支援を目指す仕組み。



※連携型校内教育支援教室

○各学校に校内教育支援教室を設置

- ・校内教育支援教室に支援員・指導員を配置し、登校に難しさを示す児童生徒への支援を実施
- ・各校の教育活動、教育相談や支援の体制を生かした取組を展開
- ・町に設置されている不登校支援相談チームと連携、情報共有
- ・子育て支援課、健康推進課や保護者、地域の皆さん、医療・福祉機関等と連携

事業の成果・今後の展望等

- ・「社会的自立を目指す支援」「不登校の時期を児童生徒にとっての意義のある時期ととらえての支援」という学校としての支援の視点の共有ができた。
- ・スクリーニングや心理面でのアンケート結果の共有により、「不登校」を「学校の在り方が問われる機会」と考え、問題に向かおうとする意識の変化が見られた。
- ・校内の教育体制と町派遣学習支援員・指導員の連携、また、校内体制と校外の関係機関との連携による「連携型校内教育支援教室」を開設することができた(0校→4校)。
- ・達成度を測る指標(自分には良いところがあると思う)において肯定的回答が上昇した(R3年度78%→87%)。
- ・本事業の直接の目標は効果的支援の実現と新規不登校の抑制にあるため、その前程となるスクリーニングによる課題分析と未然防止、さらには魅力的な学校づくりの中で育まれる自己肯定感や人間関係を築く力の育成を目指す等、発達支持的生徒指導として課題解決を図っていく。